

☆第5回策定委員会でみなさまから頂戴した質問・意見を下記のとおりまとめました。

【質問】

○義務教育学校となった場合、小中学校間の異動は、新聞に掲載される教職員の人事異動と同じ扱いになるのか？

→義務教育学校内の前期課程・後期課程の異動は校長先生の裁量で決まります。くにみ学園から他校へ異動する場合に、一般の教職員の人事異動となります。

○義務教育学校になった場合、先生方の戸惑いもあると予想されるので、先生方のケアも必要と思う。

○義務教育学校になった場合の学力に関する比較や満足度はどうなっているか？また、教育内容のメリット・デメリットは何か？

→現在のところ、学力に関する具体的な調査結果はありません。確認できるのは学校ごとの学校評価アンケートになります。また、前期課程・後期課程の先生がそれぞれ行き来し、教科指導ができることがメリットだと考えています。

→義務教育学校で施設一体型の場合、学習状況や授業の理解度が向上したとの結果が出ています。また、教職員の負担も減ったとの結果が示されています。

○小6のうちに中学校の勉強をし、中3の後半から受験勉強に打ち込むことは可能か？

→私立の一貫校のような先取りは難しいですが、カリキュラムの組み方によって、指導の配分を調整することは可能です。

○今これだけ学習塾が流行っている状況で、構想の中に学力が謳われていない。学校は学力を上げる場だと思うが、いかがか？

→今までは、数値で測れる学力が重視されてきました。今がちょうど数値で測れない非認知能力の重視に代わってきているところですが、保護者の感覚が追い付いていないと感じます。塾は競争や知識の植え込みの場であり、集団の力は生まれません。アクティブラーニング等、集団だからできることが学校の存在意義だと考えます。

→5角形の溝を埋めるのが塾の役割であり、点数的な数値を上げるためには有効です。一方で、学校は多様性を生み出す場であり、学校として一番価値のある部分です。

→「学力が高い＝幸せ」とは限りません。学力を重要視するか、その先の未来を生き抜く子どもたちの幸せを見ていくかが、くにみ学園のコンセプトの分かれ道になると考えます。

○現在のくにみ幼稚園は、なぜ建設候補地ではないのか？

→町の中心から外れた場所であり、町内の利便性、登下校の安全性を踏まえた結果、候補地からは外れました。

【意見】

□中間報告会の際、高校へ入るための勉強をどうするのか？という質問が出ており、今後のソフト面（カリキュラム）の課題となる。現状として、高3の12月にはクラスの半分ほどが大学合格が確定しており、年々共通テストの受験者は減少している。

□これから新しく学園を整備するのであれば、義務教育学校が良いと思う。先生方も小・中で支え合い、学び合える。ただ、9年間となるため中だるみしないように、区切りを上手く作ることが大切。国見学を利用した、学年の区切りなども考えられる。大切なのは0歳～15歳のつながりを作ること、くにみ学園の特徴である。

□保育の面から、0歳からという打ち出しは素晴らしい。学園で過ごす子どもたち誰もが大人になる時期がくるので、見通しの持てる生活・教育ができることは素晴らしいと感じる。

□自分の子どもが幼稚園から小学校へ上がる際に、授業にうまくなじめるか心配だった。先生方の連携があれば、保護者も安心できる。

□日本は大学進学率が伸び悩んでいる状況。コロナ禍で明確になったが、誰も取りこぼさず受け入れる場所が学校であり、多様性が生まれる場所である。非認知能力が年収や生活にプラスの効果を及ぼしていることは明確になっている。遊びから学びが生まれ、つながることで学力が伸びていくと考えられる。

□建設候補地は、面積の広い場所が良い。面積が足りないために施設や機能が整備できず、子どもたちのやりたいことができなくなることは避けてほしい。

□コンセプトについて「つながる」は受け身に感じるため、「つなげる」と主体性を感じられる方がよいのではないかと？